

# 待ち行列ネットワークにおけるユーザの意思共有 を取り入れた混雑情報システムの効果

片岡 崇  
Takashi KATAOKA

北海道大学大学院 情報科学研究施設 附属 工学部 情報科学系 教授 片岡 崇 北海道大学大学院 情報科学研究施設 附属 工学部 情報科学系 准教授 西野 晋二 北海道大学大学院 情報科学研究施設 附属 工学部 情報科学系 准教授 西野 晋二

この問題を解決するための一つの方法として、時間遅れを考慮して各サービス施設での現時点ではなく将来の混雑の状態を提示することである。そのためには、過去

---



図 2 ランダム

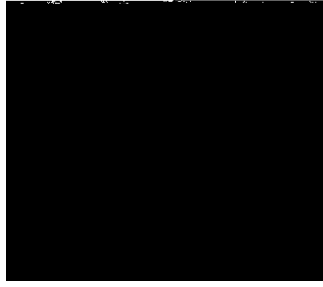


図 3 レギュラー



図 4 スモールワールド

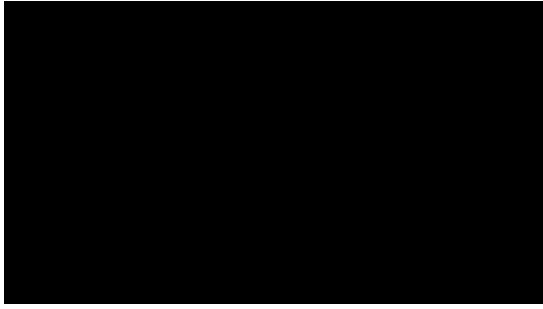


図 7 レギュラー

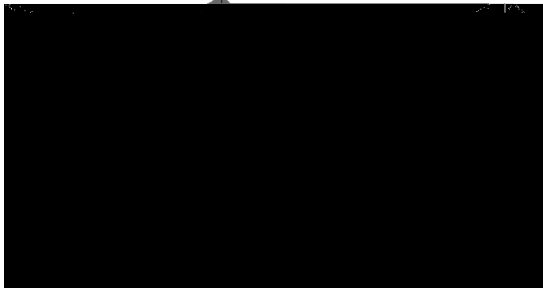


図 8 スモールワールド

トが最短経路を提示する携帯端末を持っていた場合、グラフで言えば左端の点の状態での全エージェントの平均待ち時間  $\frac{1}{N} S S w$  を 1 としたときの、全体の平均待ち時間の比をとったものである。レギュラーネットワークを除く全ての場合において、混雑情報をもとに混雑を回

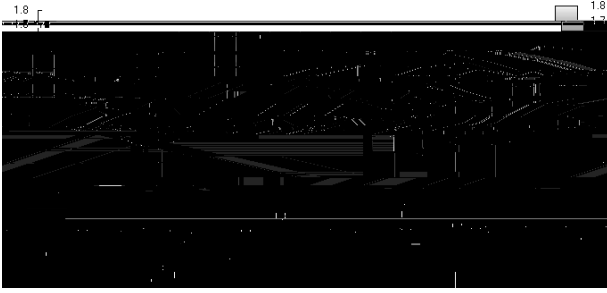


図 10 レギュラー



図 11 スモールワールド

ケー

---